

第9回まちづくり市民協議会会議録

日時：令和4年4月26日（水）18時30分～

会場：光市役所3階 大会議室1・2・3号

出席者 委員 21名（欠席 15名）
事務局 7名

1 会長あいさつ

本日は、忙しい中、また足元の悪い中、ご出席をいただき感謝申し上げます。

はじめに、今回、周南公立大学から立部先生が委員として入ってくださった。このことにより、本市のまちづくりに新しい視点で専門的な見識がいただけるものと思っている。

2か月程前になるが、茨城県が県民の幸福度を測るために「いばらき幸福度指標」という独自の指標を発表していた。国の統計を中心に、雇用率や起業率、健康寿命など38のデータから「豊かさ」「安心安全」「人財育成」「夢・希望」の各項目によって構成され、その幸福度ランキングによると、1位は東京都、2位埼玉県、3位石川県、4位愛知県、5位神奈川県で、茨城県は総合9位。山口県の総合順位の公表はなかったが、資料の中身を見てみると、「安心安全」において、山口県は全国1位となっていた。このように、茨城県は、これまで抽象的だった幸福度を分かりやすく、目に見える形で表現し、今後の施策立案に役立てていくとの方向を示している。

幸福度については、前回も少し触れたが、大東建託が行った「まちの幸福度ランキング2021、山口県版」において、1位が光市、2位下松市、3位山口市であり、本市のまちの住みやすさや魅力が広く評価された。

この度、皆さんとともに作り上げた第3次総合計画においても、まちづくりの進捗を図る指標として、新たに「幸福指標」が設定され、市民の皆さんの心や生活の質を客観的に測っていくこととされている。

世界を見渡すと、緊迫したウクライナ情勢をはじめ、混とんとした世界情勢であり、また、我が国でも物価高など、内憂外患という状態ではあるが、私たちは、これまでの経済的な豊かさや物質的な豊かさだけでなく、幸福度をより高める、心のゆとりや日々の安らぎといった精神的な豊かさ、こうした内面的な幸せを、私たちは、今まさに心から願い、求めているのではないか。

本日は、第3次総合計画、本年度予算の概要について、議題が設けられているが、委員の皆さんには、忌憚のない意見交換をお願いしたい。

2 議題

(1) 第3次光市総合計画について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

8つのプロジェクトのうち、7番目、デジタル化の推進は非常に重要と感じている。行政手続のオンライン化について、行政サービス自体を、日頃市民の方々は一人につきどのくらいの頻度で活用しているのか。オンライン化することで、市民の方の利便性がどのくらい向上するのか。オンライン化と市民生活の利便性というところをもう少し詳しく説明してほしい。

●事務局

行政手続は、現在のところ、窓口に来ていただくというのが主な形である。これをオンライン化することで、市民の皆様にご足労いただくことなく手続ができるという形が理想であると考えている。すぐにという訳にはいかないが、デジタル化を進めることによって、対面の形から非接触型の手続、そういった形を目指していけたらと考えている。

●事務局

少し補足をさせていただく。市民の方がどのくらいの数の手続を窓口で行っているかは、手続の種類も大変多く、お答えすることが難しい。ご承知のとおり、国の方でもデジタル化を進めており、行政の方で優先的に取り組むべきものとして20程度、最低限オンライン化するものが示されており、いつまでという期限も設けられている。そうした中で、市役所では現状1000以上の行政手続があるが、将来的にはオンライン化していくことができればと思っている。当面、例えば職員採用試験の募集や入札参加資格の審査、犬の登録、住民票の写しの発行、納税証明の発行、この辺りについて、直ちには難しいかもしれないが、取り組んでいければと考えているところである。その一つ的前提になるのは、マイナンバーカードということになるかと思うので、マイナンバーカードの普及促進も併せて取り組んでいきたい。

●委員

スマートフォンを利用する層をどう拡大していくかということと、行政手続がオンライン化されていかに簡便になっていくかを併せて考えた場合、どういったところで利便性が向上するのかが見えるとスマートフォン購入支援事業の活用にもつながっていくのではと思う。

●委員

これから将来的に人口が減少していくということで、外国の方を受け入れる仕組みを今から作っていてもいいのではないかと。今、日本に来ている外国人は、母国に給料を送るために日本で働いて将来的には帰るとい人が多いようであるが、そうではなく日本に定住する気持ちで来る人を呼び込むことで、人口減を補うことができるのではないかと。そのために、語学など色々問題はあろうと思うが、今から準備していけば多少はカバーできるのではないかと。思う。

また、シティプロモーションのビデオが流れたが、少し淡泊であると感じた。光市を知っている人であれば観てなるほどと思うが、もう少し各地域のことを詳しく知るこ

とができるシステムを作るといいと思う。季節ごとのイベントや自然の風景などを見える化すると、光市を知らない人もそういったところから興味を持つことができよいかではないか。

●事務局

外国人の方への支援については、計画書97ページをご覧いただきたい。戦略の取組3、具体的取組の下から2番目、外国人児童生徒のための日本語指導の展開。光市に暮らす外国人の方が増えている状況の中で、外国人の子どもたちに対して日本語の指導を行い、誰一人取り残さない教育環境を整備していくことが大切だと考えている。加えて、110ページ、多文化共生社会の推進ということで計画書に位置付けている。施策展開の方向(1)多文化共生に向けた環境整備の4行目、外国人の住民が地域に馴染み、関わり合いながら暮らすことができる社会環境を生み出すということについても記述しているところである。外国人住民が増えている中で、地域と共に生活しやすい環境を作っていくことを目指していきたいと考えている。

シティプロモーションについては、まだまだできていない部分であり、ホームページ等の活用の工夫やYouTube等をしっかり活用しながら光市の魅力を発信していけたらと思っている。

(2) 令和4年度予算の概要について

事務局より資料に基づいて説明

3 その他

○ 委員からの意見等

●委員

言おうと思っていることが言えないのは会議体としてよくないので、言えるような環境づくりをすることを求める。

自分自身、デジタル関係を仕事にしているので、データの活用やどういう風に扱うかなどの視点で見えていくと、人口推計のところ、光市のこれからの展望という部分に関しては数字を出しているのわかるが、日本全体が減っているのに対して光市がどうなのか、というところを示す必要があるのではないかと感じる。全国的なものに対して、そんなに減っていないと感ずるものなのか、それとももっと減っているから改善していかうと意識をさせるのか、その意識付けの部分がない。ただ減っているからどうにかしようという視点にしか見えないところが、表現として課題になるのではないか。全体と比較する視点を加えた時に、全国的な将来的に見た減少率が光市にとってはどうなのかというところがわかれば教えていただきたい。

DX、デジタル化の部分は、仕事柄関わることが多いが、紙とデジタルの両方の業務を行わなければならないことが多重課題となると言われている。デジタル化すれば便利になる部分もあるが、逆に職員の業務が増えることで負担増になるという問題点はどう

考えているのか。

予算について、第1回目の会議で市内の専門家を活用するという話があったと思うが、予算と総合計画を照らし合わせた時に、予算や個々の事業ではその視点がすっぽり抜けているように感じる。実際、自分も声をかけられて見積りだけ出して発注がないなど、時間ばかり取られると感じるところがある。どういう風に市内の専門家を活用していくという視点がこの予算の中に含まれて来るのか、考えを聞きたい。

●事務局

先程の総合計画の説明の中では、日本全体の中での光市という部分が抜けていたが、お配りしている資料4、人口ビジョンの方に詳しく記載している。2ページに日本の人口の将来見通しを記載しており、やはり日本の人口も、委員仰せの通り、かなり減少していくと推計されている。そこで様々な施策を進める中で、国としても人口減少を緩やかな水準に留めていきたいというところである。光市についても、人口減少が国に比べて約10年程度早く進んでいるということだったと記憶している。そうした中で、全体として人口が減少する中で、光市として何ができるのかを総合計画では謳っている。

デジタル化にあたっての多重課題、職員の業務の負担が増えることについては、委員仰せの通りであると思うので、今後の検討課題と考えている。

●事務局

市内の専門家の活用というところについては、市で様々な会議体を持っており、色々な専門的知識を有する方々に入っただき、ご意見をいただいているところである。例えば、今回の総合計画についても、皆様方市民協議会の委員として色々な専門的知識を持っている方々にも入っただき、意見をいただきながら計画を作ってきた。当然、作った計画は予算の重点化を図り、できることから令和4年度、予算化をしたところである。他の計画についても、色々な方に意見をいただきながら様々な分野で計画づくりを進めている。それについても総合計画、あるいは予算の方に落とし込んでそれぞれ予算化を図っている。そうした形で、審議会、協議会を通して皆様の専門的知識をいただいて、計画に反映して、さらには予算化を図るという一連の流れで、皆様方の知識を政策に反映している。

紙とデジタル化の話については、確かにデジタル化も両面があって、業務については増えている部分もある。デジタルの一方の役割というのは、我々自身の業務の効率化、デジタルで済ませるものはデジタルであまり負担をかけずに済ませ、その分、他に労働力を振り分けるといった目的もある。そのような考えの下でデジタル化を進め、一方で我々自身の業務も効率的なものにしていくことも目的であると考えている。

●委員

専門で仕事をしているということは、知識を得る、経験を得るということに時間もお金もかけている。頭を使うことにもお金がかかっているが、先ほどの話ではただ知識だけ欲しいと言っているように聞こえる。そこは協力し難いと感じるプロの方もいるのではないか。その部分は肝に銘じていただきたいと感じる。

●委員

20年、30年先の光市の未来をどうするかというのは、感覚的についていけない部分がある。現在の自分たちの生活の中で、やっていただきたいことが2つある。一つは、公共交通。地域内の交通のデマンド化を早急に進めていただきたい。

もう一つは、スマートフォン活用について。デジタル化を進めていく中で、お年寄りでもスマートフォンによって交流ができれば、もっと豊かな光市になるのではないかと思うので、是非お願いしたい。こうした交流については、コミュニティセンターを活用してはどうか。コミュニティセンターを中心とした地域の活性化を、重点的に支援していただきたい。

最後に、今回の会議の進め方、改革されて非常に理解しやすくなったと感じた。

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・第3次総合計画を広く周知するため、市長が様々な団体に出向いてまちづくりについて対話する「市長と気軽にミーティング（おでかけ版）」を実施予定。5月25日号広報で希望する団体を募集、7～8月を目処に実施していきたい。
- ・第3次総合計画の概要版、マンガによる概要版を作成予定。
- ・次回会議は、秋前頃を予定している。

終了時刻 20時10分